

広 大 通 信

広島大学に、「広島大学フェニックスマーク」と「マスコットキャラクター」が誕生する。

広島を拠点に活躍するデザイナーのカミガキヒロフミさん（有限会社 ICADDESIGN 代表）がデザインし、候補3案の中から教職員、学生による学内投票で決定した。

フェニックスマークのデザインコンセプトは、広島大学のシンボル、フェニックスの葉が幾多の困難を乗り越え大きく育ち、不死鳥フェニックスのようにたくましく大空へ羽ばたいていく姿を学生の若い力に重ね合わせてイメージしたもの。

また、マスコミチャラクターはフェニックスマークをデフォルメしたもので、現在、学内でチャラクターのニッケネームを募集している。決定後は部活動やイベント広報、グッズなどに幅広く活用していく。

◆ニッケネーム応募についての詳細は「いろは」を参照。
応募締め切りは、2月9日（日）17時。

令和2年10月に「大学院人間
際連携専攻（ジョイント・ディ
グリー・プログラム）」となる。
社会科学研究所広島大学・グラ

ーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻」及び「大学院先進理工系科学研究科広島大学・ライプツィヒ大学国際連携サステイナビリティ学専攻」を開設する。本学にとって初めての国

2つの専攻では、それぞれ本学と相手大学が共通の教育課程を構築し、双方の教員が協働して研究指導を行うことにより、両大学の特色ある教育を学生に提供することが可能。また、2



【マスコットキャラクター】

がんゲノム医療拠点病院としての体制整備

令和元年6月に「がんゲノム
医療」が保険適用となり、9月
には全国で34施設が指定された
応ずる。

「がんゲノム医療拠点病院」に本院が選ばれた。新しいがん診療体制の構築ならびに人材育成（令和3年度からの学生受入れを目標して）「認定遺伝力カウンセラーが併任で診療を行っている。

「養成コース」の設置を申請予定
 において重要な役割を担う。

これまでの遺伝子診療部では、
 出生前診断、先天異常、神経疾

「がんゲノム医療」では、手術で切除したり生検で採取したがん組織から遺伝子を抽出し、最新の遺伝子解析装置（次世代シーケンサー）で100、300種類の遺伝子の変化を解析する「がん遺伝子パネル検査」によって、どの遺伝子に変化が

患などに対応してきたが、次世代シーケンサーの時代となり、未診断疾患イニシアチブやがんゲノム医療、遺伝性腫瘍などの新しいゲノム医療の領域も対象として拡大していることにかんがみ、幅広く診療に取り組んでいく。

年間の教育課程のうち、1年間を外国の大学で学ぶことで、広い視野、複眼的な思考や他者と協働して課題解決に取り組む能力を、異文化を背景とした学生と切磋琢磨する中で、身に付けることができる。

入学定員はそれぞれの専攻で
 本学をホーム大学とする学生1
 名、相手大学をホーム大学とす
 る学生1名の計2名。



キャンパス内全面禁煙
本年1月から実施中

障の方に
補